

**①益田市美都町三谷・小原地域において、電気柵設置研修会を開催しました！**

令和5年4月15日（土）に三谷・小原地区において電気柵設置研修会を開催し、当事務所の鳥獣担当が講師を務めました。当日は、10名の地元住民の方々に参加いただきました。研修会では、はじめに資料をもとに電気柵設置時や見回り時のポイントについて説明しました。その後、実際に圃場に電気柵を設置したり、既に設置されている電気柵の点検を行いました。

設置のポイントについては良く理解していても、地面に凹凸のある場所や角度が変わる場所などでは電線が高くなってしまったりする部分もあり、住民からは「実際の現地指導があるとわかりやすい。助かる。」といった声が聞かれました。

現在当事務所では、「鳥獣被害ゼロ」を目指して鳥獣被害に強い集落をつくることに意欲のある集落・組織を直接支援しています。今回の研修会を契機とし、被害対策マップを作成して地域にフィードバックを行ったり、防護柵の効果的な設置等を推進することによって、地域住民が協力して農作物被害を軽減していけるよう支援を実施していきます。



説明の様子



現地研修の様子

## ① 益田市内において、ニホンジカの生息状況調査を行いました！

令和5年5月23日（火）と26日（金）に、益田市種村町、美都町久原、美都町宇津川において、ニホンジカの生息状況調査を行いました。地形や植生から調査ルートを選定し、シカの食痕や足跡、フンなどの痕跡の有無を調査・記録しました。

調査の結果、すべての調査地において、シカの痕跡が確認されました。痕跡の中には数年前のものとは推定される古いものから、数日以内のものと推定される新しいものまであり、山の中には少ない数ではありますが、数年前からシカが生息していることが分かりました。

また、被害としては報告されていないものの、今回の調査でスギやヒノキなどの造林木に対する角こすり等の被害も確認されたため、今後は注視していくとともに、林業者への普及啓発の必要性も感じられました。

益田管内では、まだシカの生息数は少ないですが、近年、捕獲数が右肩上がり増加しています。また、本調査の結果にもあるように、各地で痕跡も確認されています。このような状況の中、生息数が増加していけば、今後、林業被害だけでなく農業被害の発生も懸念されます。シカの被害が発生するようになれば、被害対策に非常に大きなコストや労力がかかってしまいます。被害を発生させないためには、行政だけでなく、林業者自らがシカの痕跡や被害などの情報収集等を積極的に行っていくとともに、捕獲対策を行っていくことが重要です。

島根県では、毎年狩猟免許試験を県内各地で実施しています。既に免許を所持している猟師の方だけに捕獲を任せるのではなく、みなさんも狩猟免許を取得し、地域の鳥獣対策の力になっていただければと思います。詳しくは下記HPをご覧ください。

加えて、シカの被害情報等もありましたら、当事務所までお知らせください。

([https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/choujuu\\_taisaku/syuryou.html](https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/choujuu_taisaku/syuryou.html))



樹皮を食べられたリョウブ



引きちぎったような食痕



造林木への角こすり



足跡



木に付着した毛



フン

**① 益田市美都町において、環境学習会「竹防除・猪防除」が開催されました！**

令和5年6月29日(木)に美都町において、環境学習会「竹防除・猪防除」が開催され、当事務所の職員が講師を務めました。当日は、11名の地元住民の参加がありました。学習会では、タケ対策を実践している方の取組事例について発表があった後、タケ・イノシシ対策についての研修会を行いました。

タケ対策を実践している方は、根気よく伐採を続けているとのことでした。

イノシシの被害対策としては、環境整備、侵入防止、捕獲の3点をバランス良く行うことが重要です。特に環境整備では、イノシシの隠れ場所にもエサ場にもなる竹林の整備もポイントとなってきます。タケの対策としては除草剤や伐採などがあり、伐採の場合は再発生するため継続して実施する必要があります。

参加者からは「タケは切っても再生してくるが、根気よく切り続けることが大切だと感じた」「今年はタケの発生が多かったので、しっかり対策していきたい」といった声が聞かれました。

タケやイノシシの対策は一朝一夕で出来るものではありません。根気よく続け、被害を軽減していきましょう。



学習会の様子

## ①鹿足郡津和野町添谷地域において、ニホンザル対策研修会を開催しました！

令和5年7月30日(日)に、において「サル対策の実践～ニホンザルの生態から学ぶ～」が開催され、西部農林水産振興センター益田事務所の鳥獣専門指導員が講師を務めました。当日は、14名の地域住民の方々に参加いただきました。研修会では、本地域で被害が目立つサルに焦点を絞り、基本的な生態や行動特性、対策技術について説明しました。サル対策では、他の獣種とは違い、追い払いも有効な対策の一つです。ただ追い払いを行うのではなく、集落の全員が一丸となって、集落の外まで、根気よく追い払い続けることが大切です。

また、座学後は実際に被害にあうという圃場を見て回り、対策方法について確認を行いました。防護柵の点検・補修や、サルを誘引する原因となるものの除去など、しっかり行うことが大切だと再確認できました。

現在当事務所では、「鳥獣被害ゼロ」を目指して鳥獣被害に強い集落をつくることに意欲のある集落・組織を直接支援しています。今回の研修会を契機とし、被害対策マップを作成して地域にフィードバックを行ったり、防護柵の効果的な設置等を推進することによって、地域住民が協力して農作物被害を軽減していけるよう支援を実施していきます。



研修会の様子



現地研修の様子

## ①津和野町部栄において、ツキノワグマ学習会を開催しました！

8月20日(日)に畑迫公民館において、「ツキノワグマ学習会～クマとの上手な付き合い方～」を開催しました。近年ツキノワグマの目撃が増えていることから、地元住民の方の要望により開催し、子どもから年配の方まで約20名が参加されました。

学習会では、クマの身体能力や食性などの生態について説明したほか、クマに出合わないための方法や、出会ってしまった場合の対処法について説明し、参加者には身を守る方法を実践してもらいました。

内容の要点としては以下のとおりです。

- ・クマの身体能力は高いが、基本的に性格は臆病。
- ・まずはクマに出合わないことが大切。
- ・クマのいる場所に行かない、こちらの存在を知らせる、クマを誘引しないことが大切。
- ・出会ってしまった場合も、冷静に対応する。
- ・出会った時はクマを見ながら後ずさりする、緊急時は防護姿勢をとる。

参加した住民からは、「クマについて知らなかったことを学べてよかった」「今回学んだクマに出合わない方法について実践したい」といった声がありました。

例年、秋になるとクマの出没が増加する傾向にあるため、日頃からクマに出合わないよう注意することが大切です。クマと人との距離が近づき、軋轢が生じている今だからこそ、人間側が正しい知識を持ち、クマと適切な関係を築いていけるようにしましょう。



学習会の様子



防御姿勢の実践

## ②益田翔陽高校が農大で林業学習を行いました！

8月23日(火)に益田翔陽高校の2年生18名が飯南町にある島根県立農林大学校林業科を訪問し、施設見学と実習体験をしました。

午前中は学校紹介を受けたのち、益田翔陽高校の卒業生である農林大生4名と意見交換を行い、農林大学校での生活や選んだ理由などを聞きました。その後、学生寮や林業研修館等の施設を見学しました。

午後からは農林大講師の指導と在校生の補助の下、チェーンソー、高性能林業機械、ハーベスタシミュレータ、動滑車を体験しました。

チェーンソー体験では、手鋸で丸太を切った後、チェーンソーを体験し、手鋸との差を実感していました。

参加した生徒からは「チェーンソー体験ができてよかった」「ハーベスタシミュレータが楽しかった」という感想がありました。

今回の体験実習で、生徒たちは林業や農林大への関心を深めていました。



農林大生との意見交換



チェーンソー体験



林業機械体験



ハーベスタシミュレータ体験

**①津和野高校1年生が林業現場で体験学習を行いました！**

9月19日(火)に津和野高校1年生8名が(有)石州造林の林業現場でハーベスタの操作体験とチェーンソー体験を行いました。

はじめに学校で島根県の林業や森林の働きについて座学を受けた後、林業現場へ移動し体験を行いました。

現場では講師の(有)石州造林の方からハーベスタがどういう機械か説明を受けた後、1人ずつハーベスタで造材作業を行いました。また、講師から使い方のレクチャーを受けながら、チェーンソーでの丸太切り体験を行いました。

体験後には講師へ、「この木1本はどれくらいの値段になるのか」「この現場は伐るのにどれくらいの期間かかったのか」といった質問も出ていました。

参加した生徒からは、「初めて機械で切る作業をして難しかったが、楽しかった」「まったく興味がなかったが、楽しかったので興味がでた」といった感想がありました。

今回の林業学習を通して、生徒さんには林業や森林に対して興味関心を深めていただきました。



ハーベスタ体験



チェーンソー体験

## ①益田高校1年生が林業や地籍調査、ドローン測量について学びました！

10月3日（火）に益田高校1年生16名が、高津川森林組合の事業所にて地籍調査や林業、ドローンを使用した航空測量について学びました。

当日はまず、座学として高津川流域三市町の地籍調査の状態や森林を育成するにはどういった作業があるかを学びました。座学の後にはドローンの操作体験を行い、実際に撮影しました。また、飛行体験の後には実際に撮影した写真を使用し、GISの操作を行いました。

参加した生徒からは、「ドローンの最高速度はどれくらいか」「林業の人はどう増減しているか」のほか測量機械や施業内容など幅広い質問がありました。

今回の体験を通じて、生徒は林業やICT技術について理解を深めていました。



森林測量に関する授業



ドローン飛行体験

## ②益田翔陽高校2年生が林業体験と治山工事の見学を行いました！

10月26日（木）に益田翔陽高校の2年生17名が、津和野町内で林業機械の体験と治山工事の見学を行いました。

午前中は津和野林産（株）の間伐現場を見学した後、土場でチェーンソー体験やグラップルの操作体験を行いました。チェーンソーの体験では、丸太切り体験だけでなく、ソーチェーンのどの部分が切れるか、どういった手入れを行っているかなど詳細な説明を受けていました。グラップルの体験では複数本の丸太をきれいに並べられるように指導を受けました。

午後は林業施業と治山林道に関する座学を受けた後、（株）堀建設の治山工事現場の見学を行いました。現場では作業中の治山施設を見学したり、ICT測量を体験したりしました。

参加した生徒さんは、積極的に体験や質問を行い、林業や治山事業の意義について理解を深めていました。



グラップルの操作体験



治山工事現場の見学

**③ 益田市喜阿弥町にて中型動物対策研修会が開催されました！**

10月31日(火)に益田市立開発地営農研修センターにて、中型動物対策研修会を開催されました。この研修会は石西地域農林振興協議会主催で行われ、15名の方が参加されました。講師には、動物の視点から見る野生動物対策に取り組まれており、現在、美郷町にて実践的な野生動物対策の普及活動を行われている麻布大学フィールドワークセンター長 江口祐輔教授をお招きしました。

研修では、はじめに座学が行われ、中型動物の生態から、どのような経路で侵入し被害を及ぼすのかを動画を交えながらわかりやすく解説していただきました。その後、周辺圃場に出向き、実際にアライグマなどの野生動物が定着、侵入しやすい環境や、その対策ポイントを1つ1つ教えていただきました。研修参加者からは、「動物の視点での考えを持っていなかったのが、そこが大事だと思った」「電気柵の設置のポイント等、知ることが出来てよかった」といった感想をいただきました。

近年、益田市ではアライグマやヌートリアなど、特定外来生物による被害が増えているといった声が聞かれます。人目線だけでなく、動物目線から見た対策を実践し、大切な作物を守りましょう！



センターで座学を受ける参加者



現地視察研修の様子

## ① ますだ産業祭に高津川流域林業活性化センターがブースを出展しました！

11月5日(日)に益田市市民学習センター周辺で開催された第37回ますだ産業祭に、高津川流域林業活性化センターがブースの出展をしました。

ブースでは、チェーンソーVR体験とマイクロショベル操作体験を行いました。

チェーンソーVR体験では、参加者がVRゴーグルを着けて、スタッフに誘導されながら、慎重に木の伐倒体験を行っていました。お子さんだけでなく、チェーンソーを使ったことのない方やこれから使ってみてみたい方など、多くの方に体験していただきました。

マイクロショベルの操作体験では、スタッフから操作説明を受けながらアームを動かしたり、回転したりしました。見た目のインパクトがあり、開場から終わりまで多くの方に来場いただきました。

ブースに来ていただいた多くの方から「楽しかった」という感想をいただき、林業への興味関心を深めてもらいました。



チェーンソーVR体験



マイクロショベル操作体験

## ② 林業省力化技術実証事業現地研修会が開催されました！

11月10日(金)に津和野町瀧元枕瀬公民館ほかにて、林業省力化技術実証事業研修会が開催されました。この研修会は、高津川流域林業活性化センターが、島根森林管理署と島根県と連携のもと主催し、県内の林業事業体等から34名の方が参加されました。

原木生産や再生林の低コスト化を推進するため、ICT機器の活用による作業効率化を実証する目的で行われ、今回は、AI搭載型ドローンのデモ飛行、GNSS測位機、3DWalkerの紹介が行われました。現地研修会は、津和野町の中ノ谷国有林で行う予定でしたが、残念ながら、雨天により体育館内でのAI搭載型ドローンのデモ飛行のみとなりました。AI搭載型ドローンは搭載されたカメラにより障害物である林内の立木を回避して飛行し、立木を画像撮影し林分状況把握を行うという機器です。林分を踏査しなくても林分調査ができる機器ですので、今後、有効な手法と考えられます。参加者からは3つの機器に関して幅広い質問があり、理解を深めていただきました。



AI搭載型ドローン デモ



AI搭載型ドローン 座学

## ③ 木造住宅にかかる講演会を開催しました！

11月14日(火)に益田合同庁舎にて講演会「ZEH対応と2025年問題への理解」を開催しました。講師には、木造住宅品質確保普及促進協議会理事長である黒川恵史氏をお招きし、2025年4月からの新築住宅に適合が義務化となる「省エネ基準」とZEH(ネットゼロエネルギーハウス)を中心とした、木造住宅とエネルギーに関してお話をいただきました。

講演会では、日本の住宅事情や海外の住宅に関する基準、2025年に義務化となる基準と断熱と関係、など住宅とエネルギーに関して、幅広いお話をいただきました。

益田管内と浜田管内の製材所、工務店、市町村等16人に参加していただき、参加者からはリフォームも適合義務化になるか、構造計算の必要性など質問があり、今後の木材建築基準に理解を深めていただきました。



講演会の様子

## ④ 桂平小学校でクマの勉強会を行いました！

11月27日(月)に益田市立桂平小学校にて「クマから身を守る研修会」を開催し、児童と地域住民合わせて30人の方に参加していただきました。

桂平小学校では毎年、益田事務所の鳥獣担当者が研修会を行い、生徒たちもクマに対する知識はしっかりと定着している様子でした。「この質問わかるひといろかな?」といった問いにも積極的に手が上がり、はきはきと答えてくれました。

座学の後は、今年は柿もぎ体験を行いました。甘い果物として昔から親しまれてきた柿ですが、現在では人口減少や高齢化などが原因で、放置されている柿の木が増えています。こうした放棄果樹はクマをはじめとする野生鳥獣の貴重な餌資源となってしまっています。また、放棄果樹の対策を行いたくても、果樹の所有者が分からなかったり、高齢で対応することが難しいといった問題が全国で起こっています。

今回、児童たちは地域の人と一緒に柿もぎをすることで、柿の実をもぐことの大変さと大切さを体験し、放棄果樹への問題意識をもってもらえたと思います。一人では解決できない問題にも、地域が一丸となって取り組むことで解決していくことができます。みんなが安心して生活できる地域づくりを、小さなことからコツコツと行っていきましょう！



柿の実をもぐ生徒たち



座学の様子

**①益田翔陽高校で林業カフェを行いました！**

令和5年12月21日(木)に益田翔陽高校の生物環境工学部1年生32名を対象として、林業カフェを開催しました。林業カフェは高校生や農林大学生、林業就業者の情報共有や意見交換を行い、実際の林業就業者がやりがいをもって働いていることを知ってもらう機会として実施しています。

当日は、男女別の班に分かれて、意見交換会とチェーンソーの丸太切り体験を行いました。

意見交換会では、普段の学校生活や趣味や興味があることなどを話しながら、林業就業者から、林業を選んだ理由、きっかけ、生活スタイルを話してもらいました。高校生からは、「林業はどんなことをするのか」「林業をするには大学に入ったほうがいいのか」など質問がありました。

チェーンソーの丸太切り体験では、安全な作業のための説明を受けた後、1人1人林業就業者の補助を受けながら丸太切りに挑戦しました。体験した生徒からは「こわい」「楽しかった」など、さまざまな感想をいただきました。時間に余裕のあった班では、2回目の体験を行ったり、合わせ切りに挑戦したりしていました。

今後も林業カフェや林業学習を継続して開催することで、高校生に対する林業就業への理解促進を図っていきます。



開会式の様子



チェーンソー体験

**① 益田市立中西小学校において、環境緑化モデル事業完成式典が行われました！**

令和6年2月1日（木）に益田市立中西小学校において、環境緑化モデル事業完成式典が行われました。式典では、学校環境緑化事業の説明や児童代表の挨拶などが行われました。

学校環境緑化モデル事業は、学校環境の緑化を通じる青少年環境教育の推進を目的として、学校敷地内の緑化や環境教育フィールドの整備を行う事業であり、（公社）国土緑化推進機構の「緑の募金事業」の助成により実施されています。

中西小学校では、学校が地域の人たちのコミュニティーの場の一つとして、子どもや地域の人に長く愛され、緑豊かな自然を子どもたちが身近に感じる環境を整えることを目的に、子どもたちや地域の方がふれあい集う憩いの場づくりや居場所づくり、植樹が行われました。サクラやツツジの植樹のほか、県内産木材を使用したベンチの整備なども行われました。



式典の様子



事業で整備されたベンチ

## ①『森で海を救おう植林事業』が開催されました！！

令和6年2月20日(火) 益田市内の山林で、市内の園児や児童、漁業関係者等が参加し、当事務所林業部職員指導のもと、クヌギ、ヒノキの苗木を植栽しました。

この事業は漁業者と林業関係者、児童・生徒が共同で植林事業に取り組むことで、「森・川・海」のつながりへの意識を高めるとともに、健全な森づくりを実践し豊かな漁場を維持していくことを目的として、益田市沿岸漁業水産振興協議会が主催して実施しています。

特に穴を掘るのは大変な作業でしたが、参加した児童・生徒は複数人で交代しながら穴を掘り、一本一本丁寧に植林を行いました。

作業を通じて、森づくりをすることで、水環境の保全と栄養分の富んだ水が海へ供給され、豊かな海を育てることを学びました。



苗木説明 風景



記念植樹